

事業報告書

令和4年度

社会福祉法人 福鳳会

社会福祉法人福鳳会

概況及び基本理念

<はじめに>

福鳳会は、基本理念の下、ご高齢者やご家族が憂いなく安心して暮らせる地域づくりに貢献していくための基本的な取り組みとして、

第一に、「敬老愛護」の基本的精神に基づく高質のサービス提供に一層努めていく。

第二に、質の高いサービスを提供する原資を得るために経営の安定化に取り組んでいく。

第三に、職員が安心して働ける環境づくりに努めていく。

第四に、制度や地域のニーズ変化に対応した高齢者サービスについて不断の研究を行い、地域包括ケアへの寄与に努めていく。

これらの取り組みを着実に進めるとともに、令和4年度は、4つの具体的な柱を重点に取り組んだ。

柱の一つ目は、年度開始後に大きな問題となった課題「(1)令和4年度に認識し新たに対応を迫られた課題」への対応である。

二つ目以下は、事業計画で設定した「(2)敬老愛護、お客さまファーストと安定した経営の両立」「(3)職員の処遇改善と職場環境の改善」「(4)既存本館及び新館改修事業の終了とその後の取り組み」であり、この3項目は、法人の基本的な方針を踏まえた基盤的な取り組みとして、これまでの観点を維持して進めた。

<令和4年度に認識し新たに対応を迫られた課題>

令和4年度には、新たに以下の4つの項目を原因として、収入が大幅に減少しあるいは支出が想定以上に増加したことで、当初見込まれた赤字幅を大きく超える赤字となった。

なお、これらは突発的に発生した問題への対応ではあるものの、一過性のものとして捉えるのではなく、持続的に対策を講じていくべきものとして対応している。

(ア) 新型コロナウイルス感染症による間接的影響：デイ利用者の利用手控え

(イ) 新型コロナウイルス感染症の侵入による直接的影響：利用休止・中断

(ウ) 特別養護老人ホーム稼働率の従来にない低下

(エ) エネルギー価格及び食料品価格の高騰

事業所数 11事業所

- ・ 特別養護老人ホーム 2事業所、併設型短期入所生活介護 1事業所
- ・ 通所介護事業 2事業所
- ・ 認知症対応型通所介護事業 1事業所
- ・ 訪問介護事業 1事業所
- ・ 居宅介護支援事業 2事業所
- ・ 地域包括支援センター 1事業所
- ・ サービス付高齢者向け住宅 1事業所
- ・ 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所 1事業所（令和5年2月開設）

職員数 217名 （令和4年度正規職員 採用者数23名／退職者数21名）

男女比 1：3

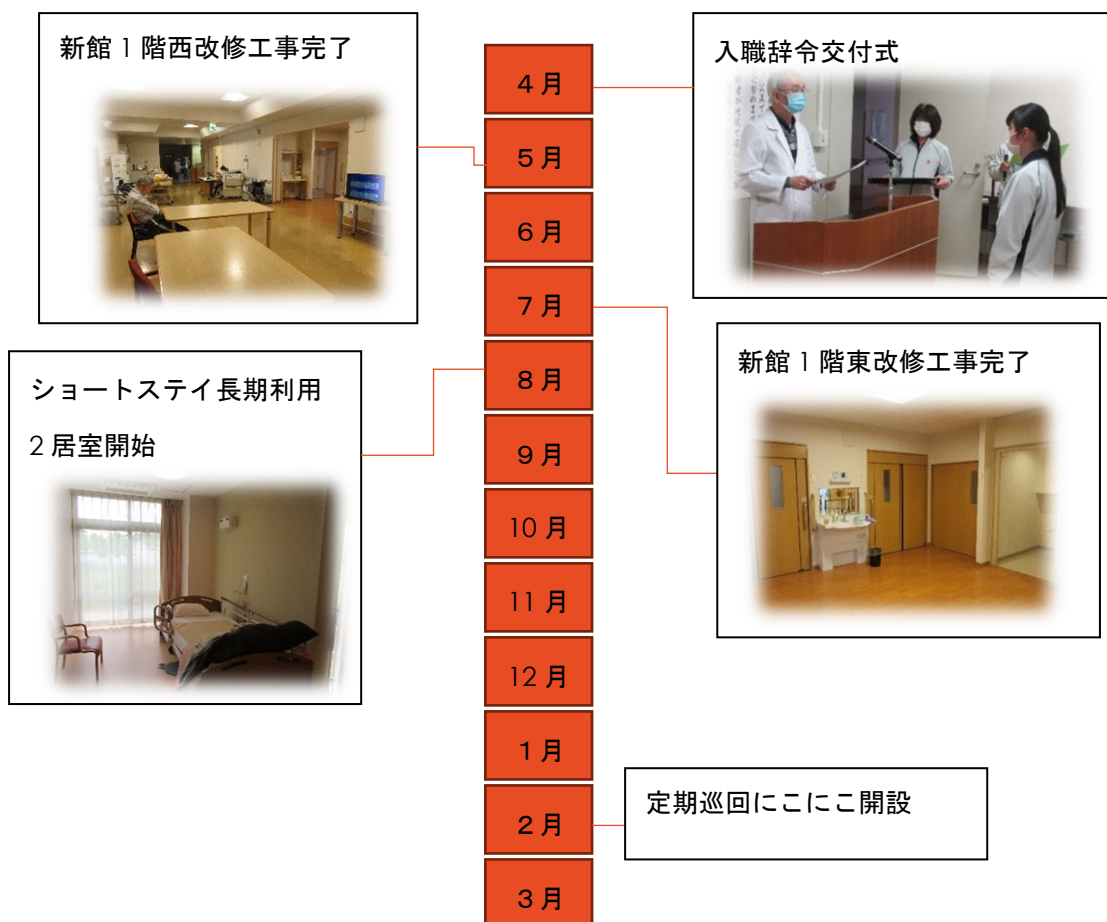
平均勤続年数／平均年齢 10年／46.4歳

令和5年3月末現在

基本理念

- ・ 高齢者の生活と人権を尊重し、公正で開かれた施設運営に努めます。
- ・ 高齢者が地域で安心して生活を送ることができる拠点施設となるように努めます。
- ・ 施設は、利用者の社会生活の場として位置づけ、安全で安心した日常生活を送ることができる環境づくりに努めます。
- ・ 職員は、常に満足のいただけるサービスが提供できるように励み、地域社会活動にも積極的にに関わり、地域から求められる施設となるように努めます。

活動状況



・主な活動ポイント

○ 法人内研修の充実。年間を通して法人内研修を開催。

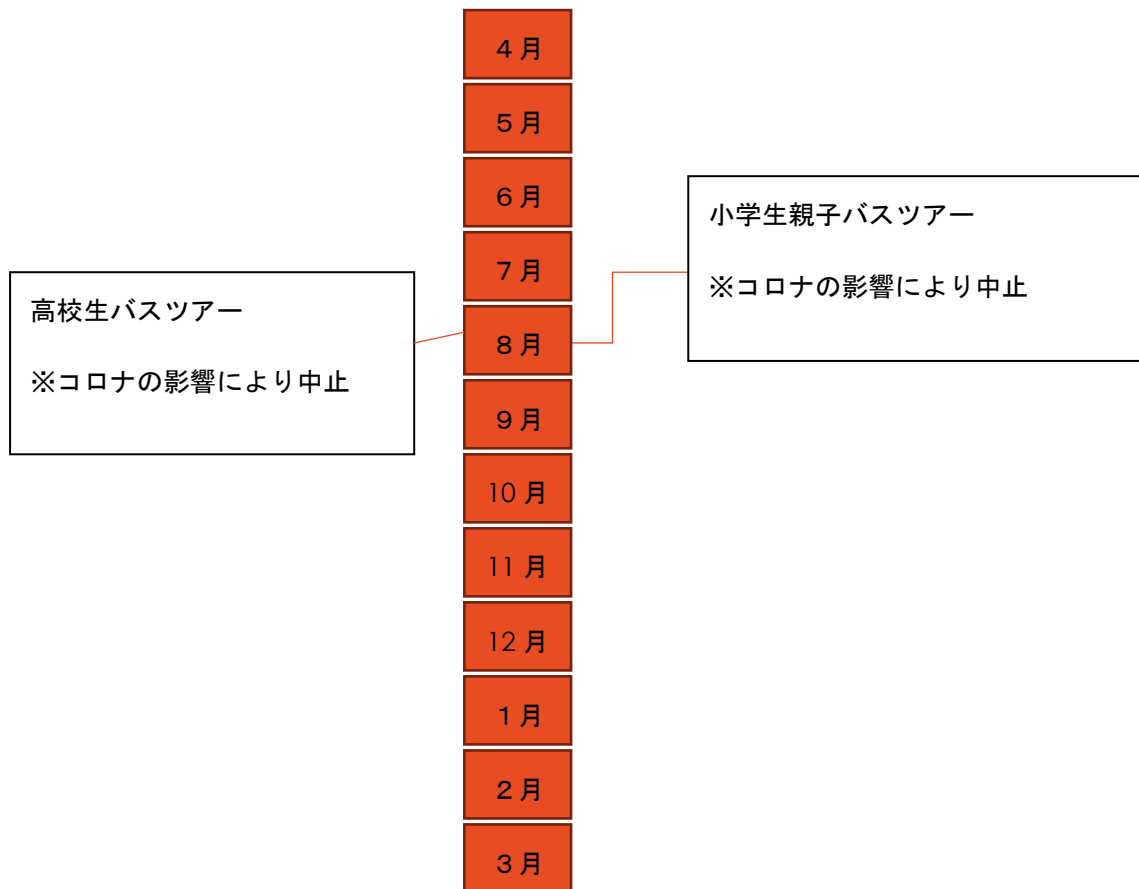
20項目の研修を延べ82日間実施し、延べ686人の職員が参加した。

自己啓発研修費貸与制度を利用した職員は 1名。

○ 高志の郷に「定期巡回にこここ」を開設（令和5年2月1日から）

○ 新館の改修完了し、従来型特養はすべて従来型個室となった。

社会貢献活動



・主な活動ポイント

コロナ対策の為、開催ができなかった。

開催企画はあったが、実施段階で、クラスター発生などの要因もあり中止となっている。

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

ユニット型特別養護老人ホーム鳳鳴苑

<事業概況>

○入居者数 従来型 69名・ユニット型 60名

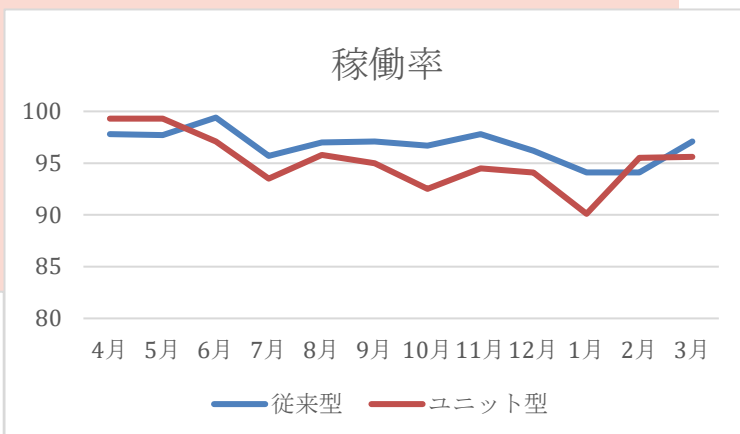
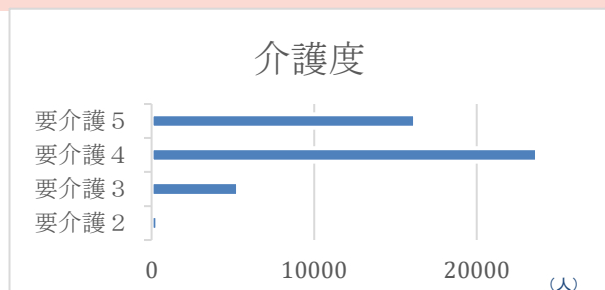
○年間稼働率 96%

○年間看取り者数 36名

○年間平均介護度 4.2

○年間平均年齢 87.9歳

○男性：女性 25名：104名



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 事故防止対策の取組みとして、移乗方法の見直し・勉強会を開催した。今後も定期的に開催をしていき、職員の意識向上に努めていく。
- ◇ 改修以降、すべて個室となり、感染対策がしやすくなった。
- ◇ 看取り介護者に最後まで安心して生活してもらえるよう感染対策のもと、家族と共にケアの継続に努めた。

業務改善

- ◇ 例年以上に入院者や退居者（看取り介護者）が多く例年よりも稼働率が下がった。
従来型 96.8%、ユニット型 95.2%となった。また、感染隔離対策をしたことによる感染予防備品費用・人員配置の苦慮も多く見られた。
- ◇ 褥瘡予防・身体拘束に対して、記録と評価を行い科学的根拠のある関わりができる体制で行ってきたが、感染対策による対応変化などがあり、適切に行われているか確認不足も見られた。
- ◇ 排泄ケアについて委員会メンバーが中心となり取組をしてきたが、途中感染対策がある等、じっくり関わるができなかった。排泄用品の見直しを進めた。

特別養護老人ホーム鳳鳴苑

併設型短期入所生活介護（ショートステイ）

<事業概況> 定員21名（令和4年8月より）

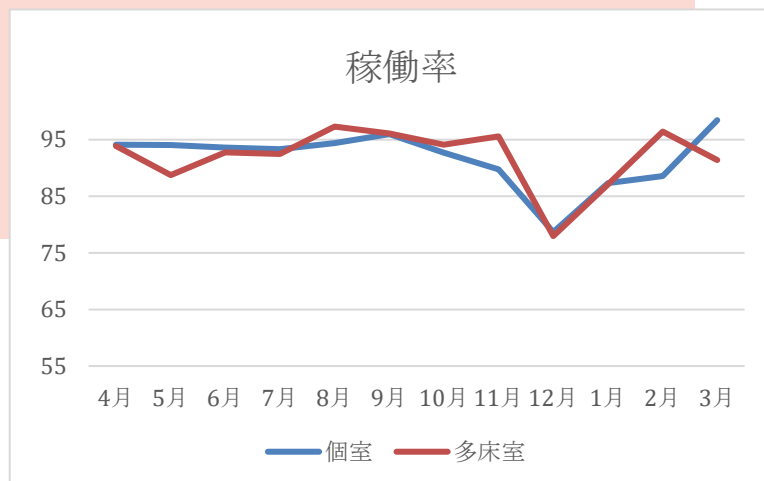
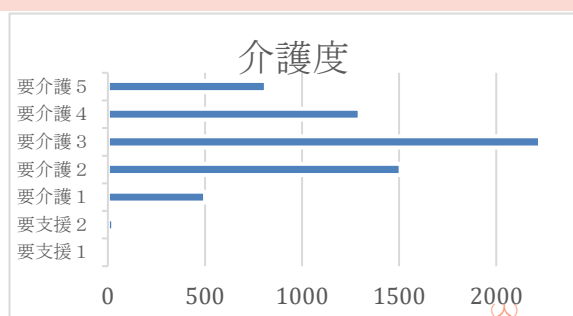
○定員数 多床室6名・個室15名

○年間稼働率 91.2%

○年間延利用者数 6,768名

○年間平均介護度 3.1

○1日平均利用者数 18.5人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 定員数19人から、長期利用できる特養に配置した個室2室を含め、定員21名になった。コロナ対応で、一時期受け入れを制限したが、その後、稼働率が回復した。
- ◇ ただ、新規受け入れしてもすぐに中止扱い（他施設入所、病院入院、死去など）のケースも多く見られ、業務が煩雑になってきている。
- ◇ 利用者及びご家族の意向確認は随時行っている。

業務改善

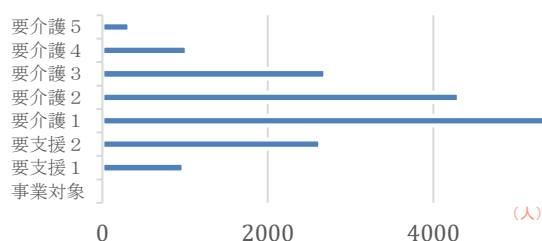
- ◇ 空床情報を定期的に発信および事業所へ持参し、次の利用につなげている。また、利用状況の変化に応じて家族、ケアマネ、他事業所・医療機関に情報提供を行っている。
- ◇ 12月に新型コロナウイルス感染が発生し、受け入れを一時中止していた。その際、改めて感染対策を見直し、机の配置や受け入れ時の注意事項等の対策を徹底した。それ以降、感染疑い例があっても拡大することなく営業が継続できている。

鳳鳴苑デイサービスセンター 通所介護事業所

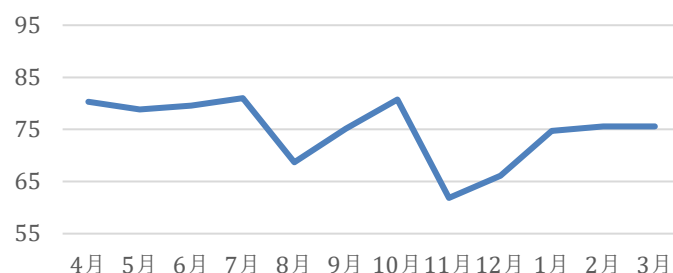
< 事業概況 >

- 定員数 70名
- 年間稼働率 74.6%
- 年間延利用者数 16,181名
- 年間平均介護度 1.7
- 1日平均利用者数 52.2人

介護度



稼働率



< 活動状況 >

サービス向上

- ◇ 新型コロナウイルス拡大状況を見ながら、季節に合った行事、外出（ドライブ）等のいろいろな行事を企画・実施し余暇活動を提供し楽しんでいただくなど、余暇活動は3グループ(自席での体操・制作活動・脳トレ)に分かれて密を避けながら実施してきた。外出などは、今後予定していく。
- ◇ 居宅支援事業所・地域包括事業所を積極的に訪問し、デイサービスの空き状況や現利用者の利用状況（利用者別に作成し提供）等の情報提供をおこない新規利用につながるように努めた。また、送迎範囲を適切に明示したチラシなどの作成を行い、他事業所の訪問時に配布している。更に、居宅支援事業所・地域包括事業所との良い関係を構築し、連携に努めた

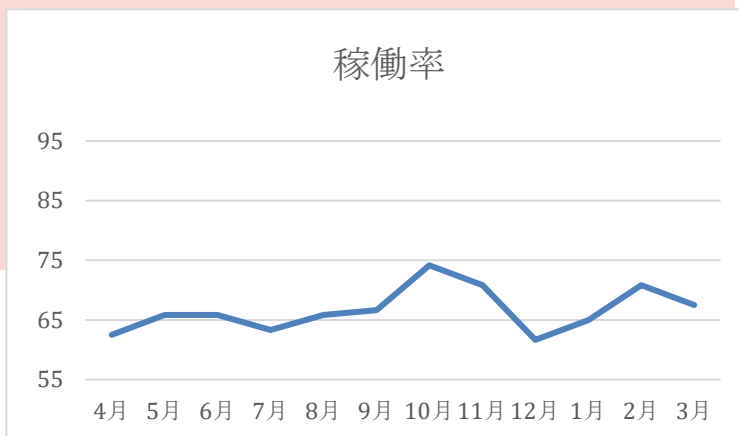
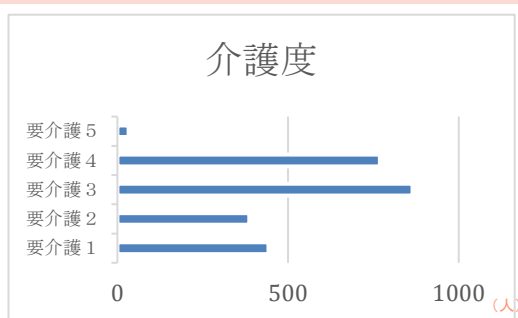
業務改善

- ◇ 利用者の利用滞在時間は、主としては7時間から8時間であるが、8時間から9時間に移行するための検討を随時進める。
- ◇ 更なる加算について、令和5年4月～総合事業対象者の科学的介護推進体制加算を取得していく。
- ◇ 総合事業対象者には、来年度より短時間利用を提案し、利用につなげる。

鳳鳴苑デイサービスセンターえがお 認知症対応型通所介護事業所

<事業概況>

- 定員数 12名
- 年間稼働率 67.2%
- 年間延利用者数 2,496名
- 年間平均介護度 2.8
- 1日平均利用者数 8.1人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 利用者様の個々の状態の把握、ご家族様の要望等に柔軟に対応し、個別性を重視したサービスを提供できた。また、送迎範囲や個々のサービス提供時間に柔軟に対応できたと思われる。しかし、現在当事業所送迎車両1台に加え他事業所より軽四1台を借りて個別送迎を行っているが、返却時間など車両使用に対しての制限がある為、準備が出来ていない為再度送迎を行う事や、乗車までに時間がかかる方など利用者様の急な対応などの際に調整が難しい事がある。
- ◇ 認知症の方を理解しようという気持ちは強くあるも、症状から導き出される行動からその意味まで考える事ができない職員も見られ、職員全員が認知症の方を理解し統一したケアに繋げる事ができなかった。また、そういった職員の為にも統一したケアが行えるよう会議等で周知を行ったが、その日その日の利用者様の状況、状態が変化する為、十分ではなかった。

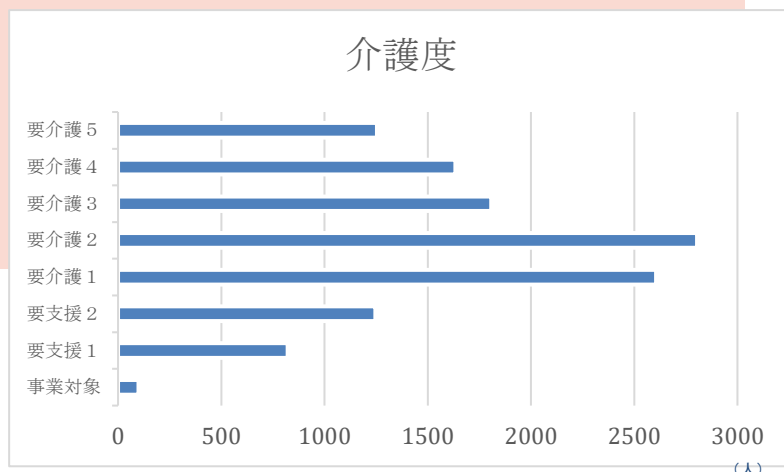
業務改善

- ◇ 1日の利用者数は7～8人だったが、年間平均稼働率については68%維持には少し届かない結果となった。前年度同様、新規の獲得者数はあるものの入院・施設入所など利用継続に繋がらないケースが多かった。

鳳鳴苑デイサービスセンター 訪問介護事業所

<事業概況>

○年間延利用者数	12,118名
身体介護延利用者数	6,063名
生活援助延利用者数	2,965名
折衷型介護延利用者数	1,076名
その他	2,014名
○年間平均介護度	2.2
○平均利用回数	33.2人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 自立支援のための見守りの援助に適した利用者には提案を行った。また、出来る限り残存能力を活かし自立を促すケアに努め、少しでも長く在宅での生活を維持できるよう支援を行った。
- ◇ 事業所の感染対策に加え、利用者の行動、人との接触等、状況や情報収集を行い、継続して感染予防に努めた。
- ◇ 利用者の状態が急変したことにより他のサービスの利用が難しくなった方等、可能な限り追加訪問を行った。
- ◇ コロナ禍もあり、デイサービスやショートステイが休止となった際の代替え利用としてヘルパーの利用を希望される方が多くあった。新規のスポット利用の希望などもあり、臨時的な利用にも柔軟に対応した。

業務改善

- ◇ 法人内の事業所に対してはメルタスを活用しより正確な情報共有に努めている。他事業所に関しても訪問時の変化や気づきをその都度報告するよう努めた。

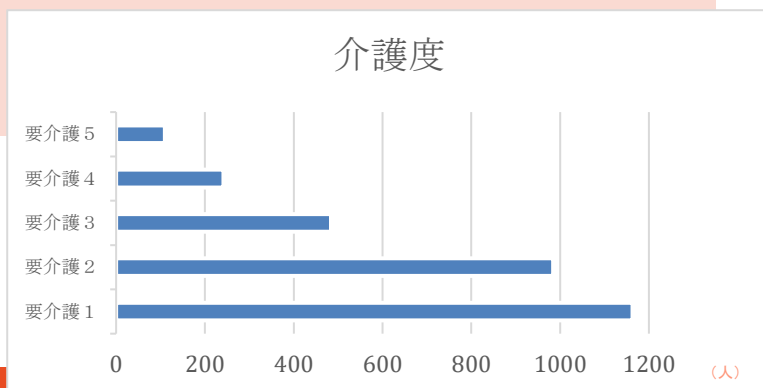
鳳鳴苑在宅介護支援センター 居宅介護支援事業所

<事業概況>

○年間ケアプラン作成件数 2,981件

○月間一人当たり作成件数 30.3件

○年間認定調査件数 215件



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 令和4年度中に、当事業所用の新型コロナウイルス発生時及び自然災害発生時のBCPの土台づくりをした。内容はまだ不十分であるため、今後の感染状況等に併せての推敲が必要と考える。
- ◇ 同法人内居宅介護支援事業所の状況確認をしながら、新規利用者獲得に努めた。
- ◇ ケアマネ全体会議を通じて、同法人居宅介護事業所連携に努めた。
- ◇ 特定事業所加算Ⅱが継続の条件はすべて達成
- ◇ ターミナルケアマネジメント加算も概ね例年並みであり、医療職含めた多職種連携が為された。

業務改善

- ◇ 令和4年2月に介護支援専門員を増員したが、やむなく8月末で退職されたため、9人体制は達成しなかった。関係機関との連携は、コロナ禍3年目においても可能な限り行った。
- ◇ 事業所全体のケアマネジメントスキル向上のために、事業所内会議やキントーンの掲示板、事業所内回覧板等用いての情報共有に努めた。ICTの使用は、事業所内会議や同法人内全体会議において、Zoomをしばしば使用することで、ペーパーレスでシャープな会議を展開することができた。

木津・福田・佐野・二塚地域包括支援センター

<事業概況>

○年間相談件数 2,442件

○1日平均件数 9.1件

<活動状況>

サービス向上

- ◇ 令和4年度の目標に沿い、地域包括ケアシステムの構築を推進する為、地域や関係機関との連携強化・充実を目指し、以下の3項目について取り組んだ。
- ◇ 「通いの場」を活用した介護予防事業の推進
- ◇ 認知症バリアフリーの推進と早期発見・早期対応の強化
- ◇ 住民が支えあう地域づくりの推進

推進事業

高岡市の委託を受け、以下の事業を行った。

◇ 包括的支援事業

地域包括支援センター運営事業・在宅医療/介護連携推進業務・認知症地域サポート事業

地域ネットワーク構築事業

◇ 生活支援体制整備事業

高齢者が多様な生活支援・介護サービスが利用できるような地域づくりを目指し取り組んだ。

◇ 地域ケア会議推進事業

地域ケア会議開催 年10回

◇ 介護予防・日常生活支援総合事業

介護予防ケアマネジメント事業・一般介護予防事業・地域における介護予防活動支援

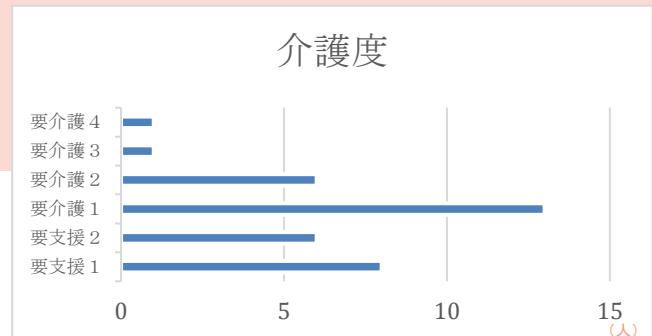
サービス付高齢者向け住宅高志の郷

<事業概況>

○居室数 45室

○令和5年3月末時点

入居数46人 44室（空1室）



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 年間の入居率は88%となった。初夏の頃に体調不良者が多く高志の郷内での生活が難しくなり退去者が増加した。一方で3年秋に始まった入居希望者減少が4年度に入っても続いていたが、市の公募で定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所の高志の郷での開設が採択された4年9月以降入居希望見学者が新型コロナ第8波最盛期下でも増え続け、多くの方に入居していただき入居率は向上した。これは、「定期巡回」がサービス向上に向けた取り組みとして一定のインパクトをもって評価されたことが主な原因と考えられる。
- ◇ 林内科医院（林治朗先生）より、往診や緊急時の対応など医療面でサポートを得た。
- ◇ 入居者の検温、体調確認は継続。感染者増加にともない来館者の方にはより詳細に体調確認を実施し、館内での感染防止に努めた。
- ◇ 現在提供中のサービスも浸透してきており安定してご利用頂いている。7月より新たに栄養管理相談も始まりより充実した「快適生活サポート」が出来るように努めた。

業務改善

- ◇ 開設より10年が経過し設備もところどころ劣化してきていますので、定期的な点検等を実施し安全の確保に努めた。
- ◇ 火災訓練（夜間想定）を2回、水害訓練（デイ共同）を1回実施した。実施結果を踏まえ、マニュアルの修正などを行い非常に備えている。

高志の郷デイサービスセンター

<事業概況>

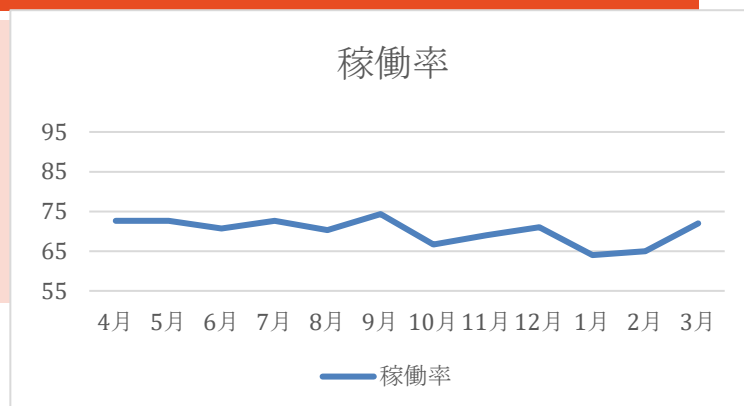
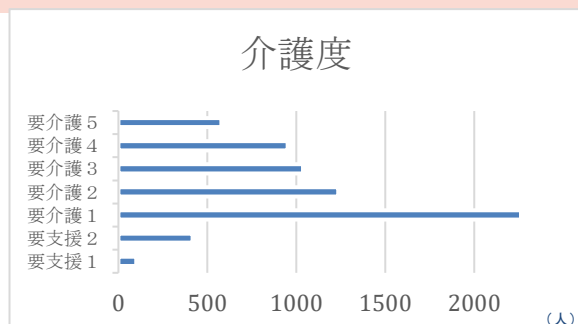
○定員 30名 営業日数 313日

○年間稼働率 70.3%

○年間延利用者数 6,545名

○年間平均介護度 2.2

○1日平均利用者数 21.0人



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 予算の稼働率80%台への到達は難しく、特にコロナ感染の影響を受けた10月は66.7%まで落ち込んでしまった。新規利用者においては定期的に獲得できているものの、施設入所や医療機関への入院といった事由で利用終了に至る方も多く、現状では稼働率を向上させることは難しい。
- ◇ 利用者が重度化していくことで、高度な職員の介護技術レベルが求められ、事故発生リスクも高まる。各職員の福祉用具（スライディングボード、回転盤）使用方法の確認や適切なポジショニング方法の伝達を随時、専門職から伝える機会を設け、介護技術向上に努めた。同時に日頃から職場内で、介護方法の悩みや疑問を話し合いやすい雰囲気づくりに努め、デイサービス全体の介護技術の質向上を目指している。

業務改善

- ◇ 現在、外部事業所からの紹介による受け入れは8割程度であり、今年度は紹介が途絶えていた事業所や新たな事業所による紹介者もあり、高志の郷デイサービスセンターの知名度が伸びていると思われる良い傾向にある。
- ◇ 職員から出た意見を聞き入れ、環境整備や改善の必要性の有無をデイサービス会議で話し合い、必要があれば随時、改善を図り適切な環境整備に向けて取り組んだ。
- ◇ 職員の身体的負担につながらないよう適切な福祉用具の活用方法や使用方法を機能訓練指導員が中心となり情報伝達を図っており、職員から必要であると意見があがった備品は可能な限り購入し環境改善を図った。

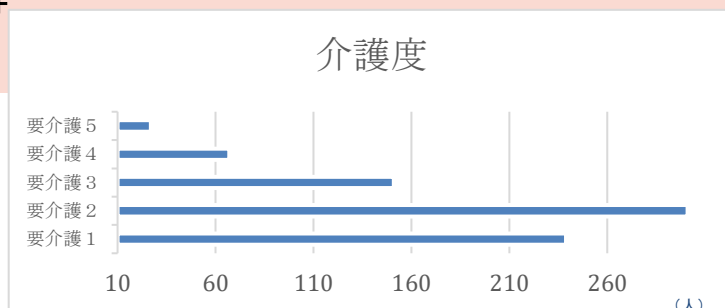
高志の郷居宅介護支援事業所

<事業概況>

○年間ケアプラン作成件数 785件

○月間一人当たり作成件数 21.8件

○年間認定調査件数 57件



<活動状況>

サービス向上

- ◇ 自立支援の視点を持ったケアプランを作成し、医療関係者ともこまめに連絡を取り合い、重度化防止に努めた。
- ◇ 感染症や災害が発生した場合であっても業務が継続できるよう、法人内の関係委員会へ参加し、必要に応じて関係研修への参加に努めた。
- ◇ 予防プランは、必要に応じて受託し、各地域包括支援センターとの連携を図るよう努めた。
- ◇ 研修に積極的に参加し、質の高いケアマネジメントを提供できるよう努めた

業務改善

- ◇ 事業所を開設してから1年余り経過し、当事業所も少しずつ地域に浸透してきたかと思われる。昨年に引き続き、地域包括支援センターや医療機関などから紹介を受け、積極的に担当するように努めた。サービス付き高齢者住宅に入居の方を担当する件数も増え、高志の郷内の連携も以前に比べて密に図れている。今後も継続して当事業所の拠点から近い地域の利用者を積極的に担当することで、信頼関係を構築し、地域に密着した事業所運営に努めたい。

定期巡回にここ

定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所

＜事業概況＞ 令和5年2月1日より開設

○年間延実利用者数 8名

稼働日数 59日

延べ利用回数 380回

○平均利用回数 6.4人

＜活動状況＞

サービス向上

- ◇ 令和5年2月1日、拠点高志の郷内に「定期巡回 にここ」を開設。
- ◇ 2月中の契約者数は4名となり、3月に新たに2名の新規契約があり、3月末で6名の方が利用。当初の予定より多くの方が利用している。

業務改善

- ◇ 同じ時間帯に訪問を希望されることがあり、シフトの在り方などを随時検討していく必要がある。